

作っちゃおう！「トイカード」

本単元で育成する資質・能力

主体性・思考力

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語第1学年及び第2学年「B書くこと」の指導事項「イ 自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」の内容を受けて設定したものである。学習指導要領の言語活動例（2）「ウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。」を単元を貫く言語活動として位置付け、事柄の順序や語と語や文と文との続き方に気を付けて説明する文章を書く力を育成する。本単元は、日常生活でも生かしていけるようになることをねらいとし、生活科の「おもちゃまつり」と関連させながら学習を進めていく。自分が選んだおもちゃの「トイカード」を作り、生活科で1年生を招待して行う「おもちゃまつり」で、1年生におもちゃの作り方を教えるという相手意識や目的意識をもたせる。

前単元の「しかけカードの作り方」では、「しかけカード」を作るために、作り方の順序を正しく読み取ることや、何がどのように書いてあるか説明の工夫を学習してきている。学習したことを生かし本単元では、事柄の順序に沿った簡単な構成や、絵や図と文章を使って「トイカード」を作成する学習をしていく。

教材文「けん玉の作り方」は、「けん玉」の作り方を〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈あそび方〉の三つの構成で説明した児童作品のモデル文である。〈作り方〉には「まず」「つぎに」「それから」と順序を表す言葉を使い、さらに文章と絵を対応させることで、作り方が明確に書かれている。児童が説明を書く上で、そのままモデルとすることができ、書くことの学習をするのに適切な教材である。

- 本学級の児童は、4月に行った「海田町標準学力調査」において、「書くこと 作文」問題の得点率が74.1%と全国得点率から13%低く、自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って書く力が十分身に付いていないという実態が明らかになった。このことをふまえて2年生の1学期には、「こんなもの見つけたよ」の単元で、「初め」「中」「終わり」の構成で書く学習を行った。また、「かんさつ名人になろう」の単元では、「まず」「つぎに」という順序を表す言葉を使って書く学習も行っている。しかし、普段の日記や作文では、順序を表す言葉がまだ十分に使えず、同じ接続詞を多用したり、構成を意識せず、思い付くままに書き進めてしまったりする児童が多く、文のつながりを意識して書くことができにくい。

- **主体的に学ぼうとする「課題発見・解決学習」の単元**

指導に当たっては、生活科の「あそび 大すき あつまれ！」で行う「おもちゃまつり」と並行して行っていく。単元導入前の生活科の時間に自分の紹介するおもちゃを作る活動を行う。**課題の設定**の工夫としては、国語の導入で生活科で作ったおもちゃの作り方を説明する文章を書く活動を取り入れ、うまく作り方が説明できないという困り感をもたせることで、学ぶ必要性を感じさせる。単元のゴールとして、1年生に紹介するおもちゃの作り方の説明書「トイカード」を書き、「おもちゃまつり」で1年生とおもちゃを作ることを設定している。1年生におもちゃの作り方を紹介するという相手意

識、目的意識を明確にすることで主体的に学ぼうとする意欲を高めたい。**情報の収集**の段階では、既習の教材文「しかけカードの作り方」と教材文「けん玉の作り方」を読み比べて、作り手の立場に立って説明に必要な情報を整理する。順序を表す言葉や、絵や写真と文章の関連付けを視点として、説明するために必要なことを二つの教材文を比較させることで整理する。**整理・分析**の段階では、「けん玉の使い方」を参考に、共通に「パッチンガエルのトイカード」を書き、1年生が興味をもつ「トイカード」の説明の書き方を考える活動を行う。作り方のポイントをおさえて、作り手に分りやすい「トイカード」の書き方を学ぶ。次に学んだことを生かして自分の紹介したいおもちゃの「トイカード」を作成する。その際に「トイカード」に書く内容や1年生に分りやすいキーワードを確認し、パッチンガエルの「トイカード」の学習と同様に、順序を表す言葉を入れたり絵や写真と文章を対応させたりすることを通して、文と文との続き方を考えながら書かせる。さらに、ペアやグループで、1年生に分りやすい書き方かどうか交流を行う。**まとめ・創造・表現**の段階では、自分の紹介したいおもちゃの「トイカード」を書く。1年生に伝わりやすい言葉を選んだり、絵と文章を関連付けて、より分りやすい説明を書き加えたりしながら、生活科の「おもちゃまつり」に使う「トイカード」を完成させる活動を行わせる。**振り返り**の段階では、これまでの学習を振り返り、相手にとって分りやすいように書くことができたか自己評価を行う。本単元で学んだことは、他の授業などで、順序を表す言葉を使った発表や順序立てて説明するという学習に生かしていきたいという興味、関心へとつなげたい。

○ **「学び合い」における協働的な思考の場の工夫**

本単元で身に付けさせたい思考の力は、1年生に分りやすいおもちゃの「トイカード」「説明のこつ」を考える力である。そのために、「しかけカードの作り方」と「けん玉の作り方」を思考ツールであるベン図を使い、それぞれの「説明のこつ」を比較しながら、共通点に重点をおき明らかにしていく。初めに、自分の説明に生かしたい書き方を見付けるといった目的意識をもたせて、「説明のこつ」を付箋に個人で書かせる。そしてペアで考えを出させて交流した後、全体場で、「説明のこつ」をまとめていく。比較し整理することで、分りやすい説明をするために事柄の順序の必要性や絵と文を関連付けて説明することの大切さを認識できるようにする。一人では、十分に書けなかった児童も、協働的な思考の場を工夫することで、多様な視点で「説明のこつ」について理解することができる。と考える。

単元の目標及び内容について

- 学習したことを生かし、おもちゃの作り方を相手に分りやすく説明する文章を進んで書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- 事柄の順序やおもちゃ作りの手順に沿って説明書の構成を考えながら書くことができる。 【書くこと イ】
- 絵と対応させながら、文のつながりを意識して書くことができる。 【書くこと ウ】
- 説明するための言葉や順序を表す言葉を理解できる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ（ア）】

単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
【単元を貫く言語活動】 紹介したいおもちゃの「トイカード」を作る。		
学習したことを生かし、おもちゃの作り方を分かりやすく説明する文を進んで書こうとしている。 自分のおもちゃの特徴をつかみ、それを相手に伝えたいという願いをもって書こうとしている。	おもちゃ作りの簡単な構成を考え、順序に沿って書いている。(イ) 絵と対応させながら、文のつながりを意識して書いている。(ウ)	説明する表現や順序を表す表現を用いて書いている。(イ(ア))

指導と評価の計画

全9時間 (本時2 / 9時間)

次	時	学習活動	評価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
		生活科 ○生活科の時間に、「おもちゃまつり」で紹介するおもちゃを作る。					
一	1	課題の設定(1) ○生活科「おもちゃまつり」で紹介するおもちゃの作り方を説明することに意欲をもつ。 ・おもちゃの作り方を紹介するために必要なものを考える。 ・おもちゃの見本だけでなく、作り方を説明するためにおもちゃの説明書が必要だということに気付く。 ・前単元で学習した「しかけカードの作り方」を生かして学習を進めていく。	○			・おもちゃを紹介するための説明書に必要なことの見通しをもとうとしている。	行動観察 ノート
二	2	情報の収集(1) ○分かりやすい説明のしかたを学ぶという目的をもって「しかけカードの作り方」と「けん玉の作り方」を読み比べる。 ・共通点や相違点を明らかにしながら、事柄の順序など分かりやすい説明のしかたを考える。 【本時】		○		・共通点と相違点を明らかにしながら事柄の順序など分かりやすい説明のこつを見付けている。	行動観察 ワークシート

次	時	学習活動	評 価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
二	3 ・ 4	整理・分析（3） ○パッチンガエルの「トイカード」を書く。 ・作り方のポイント（前書き、材料と道具、作り方、使い方）を使って書く。		○		・「トイカード」の文章の構成を考え、書いている。 ・絵と対応させながら、文のつながりを意識して書いている。	行動観察 パッチンガエルの「トイカード」
	5	○自分が紹介したいおもちゃの「トイカード」にどのような内容を書くか考える。 ・「トイカード」に書く内容や1年生に分かりやすい説明となるキーワード（ぴったり、真ん中）を話し合う。 ・ペアやグループで互いに読み比べて、より1年生が分かりやすい書き方はないか考える。	○			・主体的に「トイカード」の内容を考え、1年生に分かりやすい書き方の工夫を考えている。	行動観察 「トイカード」
三	6 ・ 7	まとめ・創造・表現（3） ○自分の紹介したいおもちゃの「トイカード」を作る。 ・「トイカード」を読んで、作り方が説明できているか気を付ける。		○		・作る手順に沿って順序を表す言葉を使い、絵と文を対応させて書いている。	行動観察 「トイカード」
	8	○分かりやすいカードになっているかに気を付けて書いた説明書を読み返す。			○	・「トイカード」を読み直し、説明する言葉の間違いや分かりやすさに気を付けて、書き直している。	行動観察 ワークシート
	9	振り返り（1） ○単元全体を振り返る。 ・これまでの学習を振り返り、相手にとって分かりやすいように、順序立てて説明することができたか自己評価する。 ・「トイカード」のように相手に分かりやすく説明するもので、他に作ってみたいものはないかを考える。	○			・他のおもちゃの「トイカード」を作ろうとしている。	行動観察
		生活科 ・「トイカード」をもとにおもちゃを1年生と一緒に作る。					

本時の学習

(1) 本時の目標

- 「しかけカードの作り方」と「けん玉の作り方」を読み比べ、「説明のこつ」を見付けることができる。

(2) 本時の評価規準

- 共通点と相違点に着目し、事柄の順序などの分かりやすい説明のこつを見付けている。

【書く能力】

(3) 本時の学習展開（2時間目／全9時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> — めあて — せつめいのし方をくらべ、せつめいのこつを見つけよう。 </div>	◇これから自分のおもちゃの「トイカード」を書く活動に向けて、ふじいさんがどのように「しかけカードの作り方」の説明のこつを使っているかを見付けることを確認し学習の見通しをもたせる。	☆分かりやすく説明するために、事柄の順序に着目して考えようとしている。
2 「けん玉の作り方」の説明で使用されている「しかけカードの作り方」の説明のこつを見つめる。 ○「けん玉の作り方」と「しかけカードの作り方」で使われている説明のこつの中で、同じところと違うところを探してみよう。 〈同じところ〉 ・組み立て（前書き、材料と道具、作り方、○○方） ・順序を表す言葉（まず、つぎに、それから） ・絵や写真と文が合っている ・数字 ・気を付けるところ 〈違うところ〉 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">しかけカード</div> <ul style="list-style-type: none"> ・長い ・使い方 ・写真 ・1つの説明に1枚の写真 ・失敗例 ・さいごに <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">けん玉の作り方</div> <ul style="list-style-type: none"> ・短い ・遊び方 ・絵 	◇「自分の説明に活かしたい書き方を見付ける」という目的意識を与えることで、主体的に読むことができるようにする。 ◇「しかけカードの作り方」を一枚にまとめたプリントを用意することで、説明書の構成を目で捉えられるようにする。 ◇見付けた説明のこつを1つの付箋に1つ書くように指示する。 ◆「しかけカードの作り方」で学習した説明のこつをプリントに書き込んだヒントカードを使って考えさせる。	

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力</p>
<p>□思考の場の工夫 比較する 見付けたことを付箋に書き、ペアで共通点と相違点をベン図に整理させる。</p> <p>3 全体で交流する。 ○「けん玉の作り方」と「しかけカードの作り方」で使われている説明のこつの中で、同じところと違うところは、どんなところでしょうか。 ・順序を間違えると、けん玉を作ることができなくなるから、順序は大事。 ・文字だけだと分かりにくいから、絵や写真が必要。</p> <p>4 本時の学習をまとめる。</p>	<p>◇見付けた「説明のこつ」を使うとなぜ分かりやすいのかという理由を明らかにしながら発表させる。</p> <p>◇ベン図の「同じところ」が「説明のこつ」では大事であること、特に「トイカード」では、順序を表す言葉と絵と文を対応させて書くことが大事であることに気付かせる。</p>	<p>◎事柄の順序と絵と文を対応させた分かりやすい説明のこつを見付けている。〔書く能力〕 (行動観察・ワークシート)</p>
<p>★めざす児童の姿 (順序を表す言葉と絵と文を対応させて書くことにふれていればよい) 説明のこつは、「<u>まず、つぎに、それから</u>」という<u>順序の言葉</u>と、<u>絵と文を合わせて書く</u>ことです。おもちゃを作る順序がよく分かり、おもちゃの作り方が文だけよりも絵があると分かりやすいからです。</p>		
	<p>◇単元のはじめに、おもちゃの作り方を書いた時に出された「こまったこと」は、解決したかどうかを確かめる。</p> <p>◇次時は、パッチンガエルの「トイカード」を書くことを確認する。</p>	

(4) 板書計画

まとめ

せつめいのこつ

一 「まず、つぎに、それから」
じゅんじよをあらわすことばをつかう。

二 絵と文を合わせて書く。

けん玉の作り方

しかけカードの作り方

ちがうところ

おなじところ

ちがうところ

- ・ 絵
- ・ あそび方
- ・ みじかい

- ・ くみ立て(まえ書き、ざいりようとどうぐ、作り方、○○方)
- ・ じゅんじよ(まず、つぎに、それから)
- ・ 絵やしゃしんと文が合っている
- ・ 数字
- ・ 気をつけること

- ・ 長い
- ・ つかい方
- ・ しゃしん
- ・ 一つのせつめいに「まいのしゃしん
- ・ しっぱいれい
- ・ さいごに

めあて

せつめいのし方をくらべ、せつめいのこつを見つけよう。

作っちゃおう！「トイカード」

〈参考〉 本単元で使用する思考ツール

(ベン図)

